

図書館業務における ChatGPT を活用した POP 制作とそのテキスト分析

学籍番号 22011236 氏名 中台 葵

本研究の目的は、図書館の POP を活用して、ChatGPT の特徴と新たなクリエイティブの可能性を探求することである。近年、人工知能はその進化により、言語処理や自然言語生成の分野で非常に優れた成果を上げており、この可能性を図書館業務の中でも、特に POP 制作に活用することで、利用者である大学生に対してより魅力的な図書館となるように、効果的に業務を遂行することが期待される。

本研究の動機として、私が図書館でアルバイトをしている経験から、POP 制作の難しさやその制約を痛感していることに起因する。時間と労力の著しい消費、デザインやアイデアの繰り返し、新しいアプローチの不足など、POP 制作に関連する課題は数多い。しかし、近年の AI 技術の進化は、これらの課題への新しい解決策を提供する可能性があると考えられる。そのため、本研究を通じて、ChatGPT を用いた図書館の POP 制作における新たな表現やアイデアの可能性を探求し、AI が実際の業務にどのように貢献できるかを検証する。一方で、AI にとってはクリエイティブな活動をすることに弱点があり、作成した POP が本当に魅力的で、有益かを確認する必要がある。

研究手法については 2 通り行う。1 つ目は、アンケート調査だ。アンケート調査では人の作った POP と ChatGPT を活用して作った POP の比較を行う。POP を作る書籍は、図書館アルバイトの学生が図書館ツアーで選定した 10 冊を対象とする。アンケート調査の内容については、対象は多摩大学の学生で、同じ本をもとに人と ChatGPT が作成した 2 つの POP を比べ、どちらが魅力的な POP であるかを調査する。これにおいて、人の作った POP と ChatGPT を活用して作った POP で本を読もうとする意欲の違いを検討する。2 つ目は、テキスト分析だ。テキスト分析では ChatGPT を活用して作った POP のテキスト分析を実施する。具体的には、ワードクラウド分析を用いて頻出する単語やキーワードを視覚的に把握する。さらに、単語ペアネットワーク分析により、テキスト内の単語間の関連性を明らかにする。最後に、トピックモデル分析を使用して、テキストからの主要なテーマやトピックを抽出する。これにおいて、分析により分類されるグループと、実際に書籍情報によるグループとの違いを検討する。

結果として、ChatGPT の特徴と新たなクリエイティブの可能性について、テキスト生成においては人間に匹敵する能力を持つことが示唆される。しかし、同時に新しいアイデアを提案する点においては、限定的であると考えられる。今後の課題として、画像生成 AI を活用しつつ、テキストだけでなくイラストや背景のデザインも含めた総合的な POP 作成の提案を追求することが必要と考える。これにより、より魅力的でバランスの取れた POP が実現でき、生成 AI の多面的な能力を最大限に引き出すことが期待される。